

岩舟町の土管づくり

明治時代のはじめのころ、岩舟町茂呂地区の新井藤吉と岩舟町曲ヶ島地区の新楽平五郎が焼きものづくりをはじめました。このあたりの土は、焼きもののねん土に都合がよかったのと、焼き釜を使うときに燃料となる木もたくさんあったからです。



新楽平五郎の石碑

はじめのころは失敗ばかりでうまくいきませんでした。そこで、焼きものづくりがさかんな愛知県常滑市から職人をまねきました。その職人の指導を受けながら、研究に研究を重ね、ついに焼きものづくりに成功し、現在の岩舟町の土管づくりのもとを築きました。